

ダンス指導における学習者の意識の変容について

高橋 繁 美

はじめに

創作ダンスは、自己の表現活動である。人が、創作ダンスに魅了されるのは、思想や感情を身体で自由に表現できるから「こうしなければ」「こうすべきだ」という固定概念にとらわれなくていいところにある。しかし、表現媒体が自分自身であることから、初心者においては、特に、つくる自分と踊る自分の間に大きな隔たりを感じているようだ。従って、創作ダンスの学習では、人の行動や日常動作が、「すべて心の内面の表出」つまり、「心身一如」であり、それが表現の基盤になるということをつくり「おどりみる」活動を通して気付かせ、掘り起こさせ、発展させられるように導いていくことが重要と考える。

そこで筆者が、学習を進める上で、常に心がけていることは、押し付けや教えこむ姿勢は最少限にとどめ、先生と学生の壁を取り払い、お互いの感情が自然に出せ、ユーモアのある雰囲気を出し、心身の解放をめざすことにある。心と身体の一部感を限られた時間の中でいかに早く気付かせ、ダンスの本質に近付けることができるかを、長年の課題として模索し検討してきた。

研究目的

創作ダンス指導における学習者の認識の変容について調査し、今後の指導の充実を計るための一資料を得るものである。

研究方法

1. 期間：平成3年4月～平成4年3月
2. 対象：平成3年度東京女子体育短期大学保健体育学科1年生（285名）

被験者である平成3年4月に本学に入学した保健体育学科1年生285名を対象に、1年間（27回）にわたってダンスの授業（創作ダンス・必修）を行い、授業回数1回目、10回目、21回目の3回にそれぞれ「創作ダンスをどのように考え捉えているか」についてアンケートを実施した。対象者の「生の言葉」を得る為にすべて自由記述とした。その回答（複数）から、創作ダンスについての捉え方（認識）を抽出、列挙し、内容を分類、分析して、その変化を授業前、中間、授業後の三段階として比較検討した。学習内容については表1の通りであるがカリキュラム構成や実技指導にあたっては特に次の事を考慮した。

- 1) 素直で自由自在な心とからだになるように。
- 2) ダンスには決まった題材や型がなく、誰にでもできるように。
- 3) ダンス特有の楽しさを理解できるように。
- 4) 学生の自発的、積極的な活動を促すように。
- 5) 作品観賞（ビデオ）によってダンス全体を理解できるように。
- 6) 発表会を通して、場づくり（舞台）、衣装、照明、音響等の効果を考えられるように。
- 7) 「…ねばならない」という枠にとらわれないように。

表1 学習内容

	1, ダンスって何?	2, 両極の理解	3, 両極の理解
テーマ	・ダンスの心(気を合わせる)の理解。 ・点在、密集、カノンの理解。	・直線的な動き、曲線的な動きの理解。	・動きの多様化
内容	・ダンスウォームアップ 座の姿勢で細部を動かす。 ・ストレッチング 定型(既成)の作品を覚える。	・ダンスウォームアップ 全身の振り。(7拍子連続の?) ・ストレッチング 定型(既成)のものを行なう。	・ダンスウォームアップ 色々なステップに挑戦してみよう。 ・ストレッチング 定型(既成)のものを行なう。
	・2人組で動く。 見つめる、抱きつく、鏡のように動く (2人のタイミングを合わせる) ・立つ、座る等の単純な動きを行なう。 密集して動く。 カノンで動く。(イメージ「鏡」) ・先生の言葉がけにより全員で即興的に動き、どんな風に見えるかテーマをつける ex: 青春 アリ地獄 波によせて good!!	・イメージをもって1人で動く。 細い所を通りぬける時のように歩く。 一本線上を歩く。(ゆくり、くわて) ・2人で模倣しあう。 ・4、5人で移動しながら曲線的に動く。 ・曲線、直線を組み合わせて動きイメージを考える。 ・10人程度のグループで動いてみてイメージを出す。 ・イメージに合わせて再構成する。 ・作品発表	1 2人組で直線をつくったり、一直線をつくってみよう。 座位の姿勢で 立位の姿勢で 前後、左右に移動して 2 2人組で曲線をつくってみよう。 身体全部を使って イメージをかけあわせて (ex: 水の流れる?) 3 2人組で三角形をつくってみよう。 4 1,2,3 を組み合わせて連続する。 空間移動に変化をつけて ゆくり⇄はやく、高い⇄低い(バウ)
	4, 考えこまずに動いてみよう!	5, ひとまとまりの動き方	6, ひとまとまりの動き方
テーマ	・動きの多様化 ・極限の動き	・繰り返しの理解	・モチーフの繰り返しの意味の理解。
内容	・ダンスウォームアップ アップテンポな曲にのって。 ・ストレッチング 定型(既成)のものを行なう。	・ダンスウォームアップ 一連の動きを曲に合わせて繰り返す。 ・ストレッチング 定型(既成)のものを行なう。	・ダンスウォームアップ 一連の動きを曲に合わせて繰り返す。 ・ストレッチング 定型(既成)のものを行なう。
	・動きからイメージを引き出してみよう。 〈走ったり-止まったり〉 どんな時に走るのか? イメージをもって走ってみよう。(ex: 駆けつけられる、折角から) ・身体を極限まで使ってみよう。 止まり方にも色々ある。 ピタッと止まる 壁に寄り掛かって 人と関わって 方向 高さ 面 ・〈走ったり-止まったり〉からイメージして短くまとめてみよう。 ・作品発表 4、5人ずつ同時に行なう。	・課題 〈走って-止まって-走って-見る〉 とまる時には声を出して止まる。 見るときは方向を意識して見る。 ・動きからイメージを見つける。 (ex: 「あ! わかつた!」) ・3人組で「あつ! 見つかった」のイメージを(走って-止まって-走って-見る)で動いてみよう (はじめは3人連手で、グルグル回りながら空間を移動して走る) ・作品発表	・課題 〈走って-跳んで-跳んで...-転がって〉 跳ぶ 形 方向 転がる 形 方向 ・速度も変化させ、跳んで着地したらすぐに転がってみる。 ・(走って-跳んで-跳んで...-転がって)の動きからイメージを考えてみよう。 1人で... 2人で... (ex: 竹とんぼ、かえる) ・作品発表 (1人で)
	7, ダンスストレッチのテスト	8, 既成のダンスにふれてみる	9, 作品の構成方法
テーマ	・身体意識 ・極限まで動かしてみる。	「ゆらぐコスモス」	・群と個
内容	・ダンスウォームアップ 一連のモチーフを繰り返す。	・作品「ゆらぐコスモス」の動きを覚える ゆらいで咲いているコスモスを頭に描きながら、身体をしなやかに、やさしく、レガートに使ってみる。	・ダンスウォームアップ リズムにのって行なう。 ・ストレッチング 定型(既成)のものを行なう。
	・ストレッチのテスト	・全員で踊る。	・課題 作品「ゆらぐコスモス」の踊りを群と個を有効に使い、よりイメージをふくらませて踊ってみる。 ・10人程のグループになり、空間を構成してみよう。 イメージ: 野原や高原でゆれているコスモスの花。 ・作品発表 各グループごとに行なう。

	10, 作品の鑑賞	11, 心と身体を中心から動かしてみよう	12, 心と身体を中心から動かしてみよう
テーマ	・ダンスへの理解を深める。	・心身の解放 ・身体を中心からのエネルギーと、その伝わり方を知る。	・心身の解放 ・身体を中心からのエネルギーと、その伝わり方を知る。
内容	・ALL JAPAN DANCE FESTIVAL KOBE の作品を鑑賞する。 ＜作品＞ 鼓動 阿修羅 他4作品 ・アンケートの実施。	・ダンスウォームアップ 一連のモチーフを繰り返す。 ----- ・シェイクダンス 重さと弾みを利用して身体をシェイクしてみよう。 座位で 寝て 2人組になって相手を弾ませてみる。 (口三味線で) 上下、左右、ミックスして 立位で、足先や手先まで全身を振る。	・シェイクでウォーミングアップ 力を抜くことを体験しながらシェイクウォーミングアップの動きを楽しむ。 ----- ・1人や、2人組になって動く。 ・発表

	13, エクで軽い発想、エクナリズムをつかむ	14, 群、個、アクセントの理解	15, 構成を考える
テーマ	・空間、動きでユニークさをどう表すことができるか。	・＜走ってー固まってーバツと離れる＞と動きながらイメージを持つ。	・色々なイメージをもつ
内容	・ダンスウォーミングアップ アップテンポの曲にのって、思い切り動いてみよう。 ----- ・「いかにへじ」を書いてみよう。 空間に 床に 身体の各部分を使って ・自分の名前を書いてみよう。 名前に合うリズムをさがしながら、レベルを変えて動いてみよう。 スタートに合うポーズをさがそう。 ・数名ずつ発表	・ウォーミングアップ 「1、2の3」でジャンプをしながらいろいろに身体の面、手、足を動かしてみよう。 ・走る――2人組になり固まる ――3人組になり形をつくる ――6人組になり形をつくる ・動きながら離れてゆく ゆっくり⇒はやく ・動きながら集まる ・「固まるー離れる」を繰り返してリズムの変化を加えてみる。 ・イメージを持って動いてみる。 ・6人程のグループになり発表	・ダンスウォーミングアップ 膝、足首を上手に使う。 アップテンポな曲の中でも身体の一部に意識する。 ----- ＜伸たりー縮んだり＞ ・身体の色々な部分を伸ばして、縮めて。 ・速度を変化させる。 ・「伸ばすー縮める」の組合せを変化させる。 ・6人組になり、イメージを出し合い、動きにかけあわせる。 ・曲にのせてグループごとに発表。

	16, クラス発表会にむけて作品づくり	17, クラス発表会の練習	18, クラス発表会の練習と中間発表
テーマ	・グルーピング (10人等)) ・テーマの決定 イメージの出し合い、役割の分担	・動きづくり ・舞台についての理解	・作品の方向性 (作風) の決定。 (作品の方向・色をはっきりしよう)
内容	・「伸びるー縮む」から作品をつくる。 伸 ― 縮 (個) ↓ 伸 ― 縮 (群) ↓ 伸 ― 縮 (個) ↓ ユニゾン イメージを持って「個」、「群」を上手に使う。 ・会の運営委員を選出	・舞台についての説明 ・はじめ方、おわり方。(板付き・出入) ・上手、下手、区域 ・グループで練習する。	・グループで練習後、中間発表。 ・先生からのアドバイス。 手直しと練習 ・照明、衣装、音楽、小道具などを打合わせる。 ・鑑賞の仕方、評価についての説明。

	19, クラス発表会の練習	20, クラス発表会	21, クラス発表会のVTR鑑賞
テーマ	・何回も続けて練習する。	・発表と上演 ・鑑賞と評価	・作品を客観的にみて、問題点をみつける
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに練習順番に舞台を使う。 ・プログラムの作成 タイトル テーマ 流れ について 音楽 照明 衣装 } プリント ・カセットテープの提出 ・進行係、アナウンサーの決定。 ・音響係、照明係、アナウンスの打ち合せ(ダンス音) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム、評価表の配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループからの評価を聞き、自分たちの作品を再び見る。 ・アンケートの実施。 ・他のグループからの評価、感想のまとめプリントの配布。
	22, 指導案の立て方、書き方	23, シェイクダンス I	24, 即興
テーマ	・個性的な(個性あふ)指導案を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・本質を理解する。 ・心と身体を中心でどこ？ 	・感情と動きの理解
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスウォーミングアップ指導することを前提にUPの練習。グループごとに先生を出して行なう。 ・学習内容と計画 ・手順と展開 ・課題化の視点 ・実践について ・指導案を作成させ、提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスウォーミングアップ指導を前提に行なう。 ・シェイクダンス(早いテンポで)動きを覚え、楽しんで踊る。 ・グループで練習し発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスウォーミングアップ指導することを前提に行なう。 ・色々な曲想で、即興する。 1人で 2人で グループで
	25, ソロテスト	26, ソロテストVTR鑑賞	27, まとめ
テーマ	・即興で踊る。	・もう一度踊るとしたら。	・ダンスはまだきらい？面白かったでしょ
内容	<p><刺激> 椅子の上に手紙を置く。 照明を薄くつけ、3人ずつ行なう。 BGMあり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞して問題点を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反省 ・2年次への準備 ・話し合い

結果と考察

第1回目のアンケート表2～表3を分析すると、創作ダンスを態度と定義的観点から捉えている。

態度についてはこれまでの授業から、ある程度の子想はしていたが、創作ダンスに対して拒絶、抵抗

感を感じていることがわかった。大部分が「関心がない」「嫌い」「恥ずかしい」と回答し、「自分で考えて踊るのは難しい」と捉えている。また、「どういものかわからない」「想像がつかない」「うっとうしい」「めんどろである」などマイナスイメージが大半であった(表2)。

第1回アンケート結果(1回目授業中, 283人複数回答)
表2 ダンスに対する態度・感情

・好き	(9)
・関心がない	(25)
・嫌い	(19)
・恥ずかしい	(12)
・つまらない	(8)
・知らない、わからない	(5)
・想像がつかない	(4)
・自分には似合わない	(6)
・苦手	(5)
・不安	(4)
・抵抗がある	(3)
・必要ない	(2)
・疲れる	(1)
・うっとうしい	(1)
・面倒くさい	(1)
・堅苦しい	(1)
・自分で考えて踊るのは難しい	(28)
合計	134

創作ダンスの定義を「体で表現するもの」「テーマでイメージするものを踊る」と表現として捉えているものもいるが、「曲にあわせて踊る」「決まっている動きをする」「何も考えずに踊る」「リズムカルな身体運動」や「フォークダンス」「流行している激しいダンス」「エアロビクス」などが多数を占めている(表3)。

第2回目のアンケート結果表4～表8を分析すると、創作ダンスを態度と定義に加え、作品づくりのポイント、創作ダンスの効果、自分の身体や動きのチェックなどの観点から捉えている。また、このアンケートは、VTR観賞後に行ったために、観賞につ

いての分析も行った。

態度については、9回の授業を終え「楽しく、好きになった」「興味がわいてきた」「つくることの楽しさを知った」など創作ダンスに対して好意をもつ学生が出てきた。創作ダンスを「すごく疲れる」「かなりハード」な種目だと気がつきはじめたり、「苦手」「おもしろくない」「難しい」としていても、関心がないという意見はなくなり徐々に、創作ダンスへの興味を示している(表4)。

定義については、「体全部」「感情」「イメージをわかせて」「発展」「自分の気持ち」の語彙が多く表出されたことから推察できるように、創作ダンスを

表3 ダンスの定義, 意義

・ 体で表現するもの	(19)
・ テーマでイメージするものを踊る	(9)
・ 創作ダンス	(6)
・ 感情を表現するもの	(5)
・ ある事柄、物体を表現すること	(3)
・ フォークダンス	(12)
・ 流行している激しいダンス	(7)
・ ジャズダンス	(7)
・ エアロビクス	(5)
・ 社交ダンス	(3)
・ 体育祭、文化祭にするダンス	(2)
・ バレエ	(1)
・ 曲にあわせて踊る	(52)
・ 決まっている動きをする	(12)
・ リズミカルな身体運動	(11)
・ 好きな曲にあわせて自由に踊る	(5)
・ 楽しく工夫して体を動かすもの	(3)
・ 何も考えずに踊るもの	(7)
・ 関節の可動性を高めるもの	(3)
・ 気分転換、心の開放	(2)
・ 完成度、技術を競うもの	(6)
・ 華やかなもの	(2)
合計	182

第2回目アンケート結果 (10回目の授業中, 259人複数回答)

表4 ダンスに対する態度・感情

・ 楽しくなった	(23)
・ 少し好きになった	(5)
・ 興味が沸いてきた	(3)
・ 好きになった	(3)
・ 好きになろうと思った	(2)
・ 恥ずかしさが薄れてきた	(2)
・ つくることの楽しさを知った	(1)
・ すごく疲れる、かなりハード	(7)
・ まだ、恥ずかしい	(5)
・ 自分で考えて動くのは苦手	(3)
・ おもしろくない	(2)
・ とても難しく、好きでなくなった	(1)
・ 変なことばかりしている	(1)
合計	58

「体を使って感情や物、テーマからイメージしたものなどを表現することである」と気づいてきている。つまり「ダンス＝表現」として捉えようとしている学生が増えはじめた。また、「音楽にあわせて型のあるおどりをするだけがダンスではない」と漠然とではあるがリズム中心のもの以外の存在に気がついた

ようである。授業を通して、「表現の難しさ」や「自分でつくるもの」であることを知り、「極めていけばとても素晴らしいもの」「奥深いもの」であり、「創作ダンスが身近なもの」として感じてきた学生もみられる(表5)。

表5 ダンスの定義・意義

・体全部を使って感情や物などを表現するもの	(42)
・テーマからイメージを沸かせて踊りに発展させていくもの	(14)
・テーマに対する自分の気持ちを体で表現するもの	(7)
・イメージを体で表現すること	(8)
・自分の考えたことや感じたことを体で表現するもの	(4)
・ダンス＝表現	(3)
・音楽にあわせて、型のある踊りをするだけがダンスではないことを 知った	(15)
・ダンスの種類は幅広い	(8)
・楽しい、美しい踊りだけがダンスではない	(8)
・奥の深いもの	(4)
・きわめることができれば、とても素晴らしいもの	(2)
・身近なもの	(1)
・表現の難しさを知った	(19)
・自分自身でつくるもの	(19)
合計	154

作品をつくるポイントとしては「そのものになりきる」「気持ちが大切である」また、「1つのテーマに対していろいろな表現がある」ことに気付き、「自分のイメージの貧困さ」を感じたり、「イメージを持たないと踊れない」と感じている。また、「言葉や文字で表現できないものをダンスは表現できる」ことや題材については、「人間生活すべて」「人間のすみからすみまで」など、どんなことでも表現することができるんだ、ということを理解してきている。「顔の表情や手の力の入れ方で、いろいろな表現ができる」など細部への動きに注目しており、他の人の動

きにも注目することで、「観ている人にわかってもらう」つまり伝達することの大切さに気づく(表6)。

創作ダンスをすることで発想を豊かにし、視野が広がり、完成の喜びを味わえるようになった学生も少し見られた。さらに動く為の「基礎の大切さを知った」り、「自分の姿勢の悪さを知った」り、「正しく立つ重要性」に気づき、自分の身体、動きのチェックをするようになった(表7, 表8)。

作品鑑賞後の捉え方については、群舞(集団)の美しさや洗練された動きに「創作ダンスのもつ奥深さ」を認め「スポーツ」ともみえるパワーに驚嘆し、

表6 作品づくりのポイント

・そのものになりきる	(6)
・気持ちが大切である	(6)
・創造力が必要である	(2)
・表現力が大事だと思った	(1)
・自分のイメージをもたないと踊れない	(2)
・自分のイメージの貧困さを感じた	(2)
・1つのテーマに対して色々な表現があることがわかった	(42)
・1つ1つの動きに意味のあるものだ	(1)
・イメージはひとそれぞれ違うものだ	(1)
・体を動かしてから、イメージを考えるしかたもある	(1)
・言葉や文字で表現できないものでも、ダンスは表現できる	(5)
・人間のすみからすみまで表現できるもの	(3)
・生活すべてがダンスである	(3)
・題材は身近なものにもある	(2)
・日常動作もダンスの一部である	(1)
・顔の表情、手の力の入れ方で色々な表現ができる	(4)
・観ている人に何をイメージしているか分ってもらうことは大切である	(1)
・他の人の表現を観て想像する難しさ	(1)
合計	84

表7 ダンスの効果

・ダンスは発想を豊かにする	(2)
・日常生活の中でも発見することが多く、視野が広がりつつある	(1)
・姿勢が良くなる	(1)
・みんなで踊ることも楽しい	(1)
・感性の喜びを知った	(1)
・一生懸命やっているもので、終わった後はすごく気持ちがいい	(1)
・表現できる時にうまれる喜び、楽しさを体得できる	(1)
合計	8

表8 自分の身体、動きのチェック

・基礎の大切さを知った	(5)
・基礎は体が柔らかくなければいけないと思った	(5)
・自分の姿勢の悪さを知った	(3)
・姿勢などに注意して、リズムにあわせて踊る	(2)
・徐々に動けるようになった	(1)
・「きれいに立つ」重要さを知った	(1)
・自分の踊っている姿に私なりに満足している	(1)
合計	18

創作ダンスは、「感動を与えるもの」「芸術のようなもの」「美しいもの」「素晴らしいもの」と見え、「ビデオの人のように踊れるようになりたい」「学びたい」「身体いっぱい動いている姿をみて気持ちよ

さそう」「自信に満ちて踊る表情がきれい」など創作ダンスへの魅力を感じている。また、「音楽が重要」「イメージが大切」「構成が難しい」ことや「顔の表情や肩、胸等、細かい部分の動きも表現の一部」で

表9 VTR鑑賞後の結果

・ビデオの人のように踊れるようになりたい	(18)
・表現することの難しさを知った	(2)
・ダンスの本当の素晴らしさをもっと学びたい	(1)
・思い切ってやってみたいという意欲がでてきた	(1)
・少しやる気がでてきた	(1)
・やりがいのあるものだ	(1)
・体を動かして他の人に感動をあたえるもの	(7)
・一種の芸術のようなもの	(5)
・美しさを競うもの	(2)
・美しいもの	(1)
・楽しいもの	(1)
・ダンスは個性が生かせる	(1)
・ダンスは奥深いものだと思った	(3)
・そのものになりきることが大切だと思った	(21)
・音楽が重要である	(7)
・顔の表情、肩、胸などの細かいところまで動かす	(7)
・イメージが大切である	(5)
・テーマにそった動き、群を考えるのは難しい	(4)
・構成は難しい	(3)
・スピードの変化によっても表情の幅は広がる	(1)
・止まってもダンスの動きとなる	(1)
・1つの動きに色々な意味を込められる	(1)
・想像力が必要である	(1)
・集団での動きに感動した、集団で踊る美しさを知った	(14)
・すごくいいものだ、素晴らしいものだ	(8)
・すごいスポーツだとおもった	(5)
・体いっぱい動いてる姿は見ていて気持ち良かった	(5)
・自信に満ちて踊る表情がきれいだった	(5)
・踊っている人々は、気持ち良さそうだった、楽しそうだった	(4)
・みんながひとつになっていた	(3)
・人間の体はすごい	(3)
・みんなで協力して作り上げていくのは素晴らしい	(2)
・かっこいいと思った	(1)
・基礎が大切である	(3)
・体力が必要である	(2)
・努力が必要である	(1)
合計	151

あること、「止まっても表現である」ことにも気づいたり、特に、「そのものになりきる」ことの大切さ等を認め、9時間の授業の内容がこの作品観賞で確認され、さらに深く理解し見直しつつある(表9)。

第3回目のアンケートの結果を示す表10～表15を分析すると、創作ダンスを態度、定義、作品づくりのポイント、ダンスの効果、自分の身体や動きのチェックに加え、充実感などの観点から捉えている。

クラスごとのダンス発表会を終了し、学生は創作

ダンスに対しての好意的態度が大きく増し、否定的拒絶的態度が減少した。大半が「楽しい」「楽しかった」と答えているが、2回目と大きく違っている点は、具体的に楽しさの内容を示していることであろう。つまり、踊ることの楽しさだけでなく、「観ること」「作品をつくること」「真剣に取り組むこと」「作りあげるプロセス」「評価しあうこと」などに楽しさや関心を見出している。さらに、「またやりたい」「頑張りたい」「もっと～したい」という言葉が多くみら

第3回目アンケート結果 (21回目の授業中, 251人複数回答)

表10 ダンスに対する態度

・楽しい、楽しかった	(88)
・観ることも楽しかった	(26)
・作品をつくる素晴らしさ、楽しさがわかった	(13)
・嫌いだったが好きになった	(9)
・恥ずかしさを捨てられた	(7)
・真剣に取り組むととても楽しい	(6)
・踊ることの楽しさがわかった	(5)
・ダンスに対して興味がわいてきた	(5)
・ダンスを甘くみていた	(4)
・発表会までの段階が楽しかった	(4)
・人に感じさせることができたときにダンスが好きになる	(3)
・レオタードを着て踊ることに抵抗がなくなった	(2)
・評価しあうことも楽しい	(2)
・つくるのも、踊るのも大好き	(1)
・踊ることより観ることが好き	(1)
・踊っていると自然に夢中になる	(1)
・まだ恥ずかしさが時々残っている	(6)
・あまり好きではない	(3)
・ダンスは苦手	(2)
・まだ抵抗感がある	(1)
・またやりたい	(28)
・これからも頑張りたい	(20)
・もっと、人を引きつけるような演技がしたい	(5)
・もっと、自由自在に動けるようになりたい	(4)
・もっと、色々表現できるようになりたい	(4)
・発表会の場を増やしてほしい	(3)
・もっと、積極的に取り組んでいきたい	(3)
・もっと、ダンスの良さを発見したい	(3)
・少し苦手だが楽しくやっていきたい	(2)
・これからも一生懸命やっていきたい	(2)
・もっと、他の作品を観てみたい	(1)
・リズム感が良くなりたい	(1)
合計	265

表11 ダンスの定義, 意義

・体全体を使ってイメージしたものを表現するために踊ること	(30)
・体で色々なものを表現すること	(23)
・人の心を動かすことのできるもの、観る人を感動させるもの	(19)
・自分で思ったこと、感じたことを体で表現するもの	(18)
・テーマにあった動きを体全体を使って表現すること	(18)
・自分を表現する手段	(17)
・自分の感情を体で表現するもの	(14)
・リズムカルに体を動かし楽しむもの	(11)
・ことばで表現できないものを体とハートで表現するもの	(10)
・だれにでもできるもの	(8)
・イメージを広げながら動きをつくっていくこと	(4)
・体全体を使って曲にあわせて踊ること	(4)
・ひとつのものを色々な角度からみて、それを自分なりに表現して踊る	(4)
・自分を表現しながらリズムカルに楽しく踊ること	(4)
・曲や心のあらわれを体全体で表現するもの	(3)
・モチーフを発展させその題材に近付けていくもの	(2)
・踊ろうという思いがあるかぎり踊り続けられるもの	(2)
・感情をこめて自分を精一杯表現しながら踊ること	(1)
・規則やルールにこだわらず、自由に表現できるスポーツ	(6)
・いちばん正しいというものがなく自分の考え次第で何でも表現 することができるもの	(1)
・強制的にやらせることのできないもの	(1)
・芸術である、芸術に近いもの	(6)
・リズム感、柔軟性、想像力などを育てるスポーツ	(6)
・演劇に近いもの	(4)
・有限の肉体で無限の世界をつくるもの	(4)
・消えていくもの	(2)
・抽象的なもの	(1)
・ダンスには色々な種類がある	(5)
・幅広い運動である	(1)
・奥深いもの	(7)
・ダンスが身近なものになった	(3)
・追求すれば、なにかが得られるもの	(2)
・ダンスに対する価値観がかわった	(2)
・少し気持ち的に楽になった	(1)
・創作していくことは、難しかった	(29)
・人に理解させることが難しい	(3)
・考えていたよりダンスは難しい	(1)
合計	277

れるように、2回目より意欲的になったことがわかる。また、「もっと人をひきつけたい」という願望からは、「踊る」行為が自己のためでなく観客の為、観る

人目を強く意識することができたと思われる(表10)。

また、創作ダンスの定義が、かなり明確にみつかった学生が多くみられた。『体、テーマ、イメージ、

自分、心』などの言葉が多く使われ身体を通して心を表現する、創作ダンスの本質がとらえられたようである。さらに、「自分の感情を表現する」ことにダンスの特性をみつけた学生もかなりみられた。そのうえ、一人一人表現の方法が異なり、そのどれもが認められるものだということを理解したことで「誰にでもできる」「踊ろうという思いがある限り踊り続けられるもの」として捉え、かなり心身の解放がみられる。表現の題材についても、「あらゆるものが表現できる」「言葉にはできないもの」とまであり、深く理解できたことがわかった。また、創作ダンスは、「芸術である」として捉える傾向や「リズム感・柔軟性・想像力などを育てるスポーツ」「無限の世界をつくるもの」などと実感する一方「人に理解させる

ことの難しさ」も感じている（表11）。

作品づくりのポイントについては、「そのものになりきる大切さ」を2回目のアンケートよりさらに多くのものが感じている。特に、「大きく動くこと」「全身を使うこと」「動きにメリハリをつけること」「同じフレーズの繰り返し」の効果について実感できたようである。構成の方法、音楽や空間の使い方についても正に体験から、それぞれの大切さを感じている。また、作品は、テーマに則したモチーフやイメージにあう「モチーフを繰り返す」ことの効果をさらに認識し、「練習する事大切さ」も指摘している。各グループが工夫して作った衣装はその作品の効果をおげると同時に、「そのものになりきる」ことにも役立つと感じている。小道具については、有効性を

表12 作品づくりのポイント

・そのものになりきる大切である	(30)
・ダンスをつくるには、柔軟な頭が必要である	(7)
・すごく難しく能力が必要である	(2)
・表現力や創造力をもっとも必要とするもの	(2)
・なりきるためにも衣装は有効である	(2)
・人によって表現の方法は、様々である	(11)
・独創的な動きは目を引く	(10)
・ひとつのモチーフだけで色々な表現ができる	(3)
・日常生活のすべてが題材となる	(1)
・衣装も効果的である	(56)
・大きく動くことが大切である	(38)
・全身(指先、足先、表情、視線)にまで神経を行き届かせる必要がある	(33)
・空間の使い方、舞台の使い方を工夫する	(33)
・動きにメリハリをつける、強弱をつける	(29)
・練習が大切である	(28)
・同じフレーズを繰り返し使ったほうが良い	(23)
・照明も大切である	(22)
・音楽も大切である	(19)
・色々な動きを組み合わせることも必要である	(16)
・小道具もときには有効である	(15)
・観ている人にわかるように表現する	(13)
・構成をよく考える必要がある	(10)
・リズム、テンポ、レベルの変化をつける	(9)
・練習のときから客観的にみていく必要がある	(8)
・小道具の使い方を考える必要がある	(8)
・舞台の場づくりも重要である	(7)
・入退場の工夫も必要である	(5)
合計	440

表13 ダンスの効果

・みんなでつくる楽しさを知った	(12)
・グループ表現の場合、全員の協力あってこそ、そのイメージが表現できる	(8)
・チームワークや協調性も広がった、身についた	(7)
・心がひとつになるもの	(4)
・ストレス解消にも良い	(3)
・自分を研くことができた	(2)
・感情を豊かにできる	(2)
・新しい自分が発見できる	(2)
・自由に自分の想像を広げられるもの	(1)
・想像力が豊かになる	(1)
・ダンスを通して「やればなんでもできる」という事を学んだ	(1)
・体も心もリラックスできる	(1)
・人と人とのふれあいを与えてくれる	(1)
・他の人からのアドバイスはとても大切だと感じた	(1)
合計	46

認めながらも「使い方を考える必要がある」「小道具に頼り過ぎている」など鋭い意見もみられた。「照明や音楽の大切さ」についてもその有効性を認め、発表会当日(20時間目)は、照明や観客席が用意されたり、プログラムを配付することによって、舞台の「場づくり」や「雰囲気づくり」の重要性に気づいている。また「入退場の工夫」が必要であるなど舞台空間に配慮し、作品の始め方終わり方にも目が向けられるようになった。したがって、「なりきること」「動き」「リズム」「空間」「構成」「音楽」「衣装」「照明」「小道具」など、見ている人にわかるように、い

ろいろな視点から作品をつくらうとする考え方が非常に深くなった。さらに作品をつくるには、「人によって表現の方法はさまざまである」「独創的な動きは目をひく」など個性的でユニークな作品に引き付けられ、そのためには「柔軟な頭」「表現力や創造力などの必要性」を感じている(表12)。

発表会では、「みんな、グループ、チームワーク、全員、協力、心ひとつ、協調性、ふれあい」「よい経験、完成した喜び、感動、満足」など「みんなでつくる楽しさ」を知り、「目的達成の喜びや感動」、友人と協力し「心をひとつにできた」という達成感、

表14 充実感、達成感

・良い経験になった	(34)
・観ることで勉強になった	(25)
・完成したときの喜びは大きい	(10)
・感動した	(10)
・満足できた	(9)
・やりがいを感じた	(7)
・ダンスに出会えて良かった	(3)
・すごく素敵だと思う	(2)
・自信がでてきた	(1)
・難しい動きなどができたときはとても気持ちがいい	(1)
合計	102

表15 自分の身体、動きのチェック

・動きの中心は腰である	(6)
・基礎的な動きをマスターしていくことが必要である	(4)
合計	10

充実感を強く感じている。なお、「動きの中心は腰である」「基礎的な動きをマスターしていくことが必要である」など自在に動ける身体を望む言葉もみられた(表13~表15)。

まとめ

授業を受ける前のダンスの捉え方(認識)は、創作ダンスがどういうものなのかという曖昧で確信がない。ネガティブな言語表現が大部分を占め、マイナスイメージが強い。

また、中間調査では創作ダンスは自分が考えてつくるものとして捉える傾向がみられ、特に、創作ダンスをあらゆる方面から見つめる目を持ち、身体を通して表現することを認知しつつある。このころになると、ダンスを漠然とではあるが広く理解し、また、理解してきていることを認識し始めている。これらに比例するように学習前は、ダンスに対してマイナスイメージを持っていたものが、だんだんプラスイメージになりポジティブな言語表現の増加がみられるようになった。

発表会後では、イメージしたことを身体でいかに伝えるか、つまり、伝達しようとするための作品づくりや作品演出の意識が非常に強まり、創作ダンスは「内面の表出」であることの認識がより深まった。また、グループによる創作活動を通して共通の目標達成と感動を経験することにより、いっそうの学習効果が出ている。したがって、1年間の授業の中で、創作ダンスの本質を理解させることは、おおむね達成されたと思われる。そのキーポイントは、VTR作品鑑賞と発表会にあり、特に「見る」「見せる」ことや「場づくり」の効果は大きい。1時間ごとの学習ポイントはVTR作品鑑賞と発表会によって確認され、

実感とともに認識が深まっていく。さらに、出演者や観客としての経験は「つくって 踊って 見せる」側と「見る」側からの、創作ダンスに対する認識が高められた。したがって、カリキュラムの中では学生の能力や意欲などからタイミングをみて、ビデオによる鑑賞や発表会などの検討が必要であろう。また、場づくりでは舞台空間をしきることや観客席をつくること、ライト、暗幕などの工夫と配慮が大切である。

以上のことをふまえ、今後のダンス指導の充実を計る指針を得ることができた。なお、より専門的な理論や技能の理解、指導者としての立場から、新たに目標を示唆し、より深いところでの創作ダンスに対する発見や理解が高められるように導くことを、今後の課題としたい。

参考文献

- 1) フェルデンクライス、M「フェルデンクライスの身体訓練法」大和書房 1982
- 2) 林 真幾子「ダンスカリキュラムに関する一考察」東京女子体育大学紀要 26号 1991
- 3) 松本千代栄 他 「ダンス・表現学習指導書」大修館書店 1980「ダンスの教育学 2・3」日本教育書籍 1992
- 4) 佐藤みどり「ダンス課題学習の成果」日本体育学会 第41回大会 1990
- 5) 柴 真理子「身体表現」東京書籍 1933
- 6) 吉岡美和「舞踊課題と創作学習に関する研究」日本体育学会 第41回大会 1990